

ISSN 1881 — 980X

一般社団法人日本科学教育学会  
Japan Society for Science Education  
発行：隅田 学  
事務局：中西印刷株式会社 学会部内  
URL : <http://www.jsse.jp>

.....  
2025.12.15  
**NO.275**  
.....

# 科学教育研究レター



## 目 次

■ 選挙管理委員会だより	.....2	■ 支部・研究会だより	.....14
一般社団法人日本科学教育学会役員選挙・代議員選挙のお知らせ		2025年度研究会開催のお知らせ	
■ 理事会だより	.....3	■ 國際交流委員会だより	.....17
日本科学教育学会第315回理事会報告		2025年度第1回日本科学教育学会研究会（国際交流委員会開催）	
一般社団法人日本科学教育学会第49回定時代議員総会報告		開催報告国際学会開催情報	
合同会議報告		■ 若手活性化委員会だより	.....18
■ 学会賞	.....8	2025年 日本科学教育学会研究会（若手活性化委員会開催）概要報告	
第49回年会発表賞の決定		若手研究者、「初心」を語る	
2026（令和8）年度学会賞候補者の募集		■ 編集委員会だより	.....22
■ 50周年記念科学教育出版賞	.....10	2025年度第1回編集理事会報告	
日本科学教育学会50周年記念 科学教育出版賞のお知らせ		特集投稿募集のお知らせ	
■ 日本科学教育学会創立50周年 記念事業企画・実行委員会	.....11	「科学教育研究」編集状況報告	
科学教育啓発活動・イベント部門創立50周年記念行事		■ 広報委員会からのお知らせ	.....28
■ 年会	.....12		
第50回年会開催案内（第2次）			

## 一般社団法人日本科学教育学会役員選挙・代議員選挙のお知らせ

代議員選挙管理委員会 委員長 雲財 寛  
役員選挙管理委員会 委員長 西村 圭一

一般社団法人日本科学教育学会では、次年度（2026年7月1日～）以降の役員候補および代議員候補の選挙を実施します。

新役員選挙では、理事および監事を選出します。2028年まで任期のある役員はそのまま役員候補となり、役員13名（理事12名、監事1名）を選出します。

代議員選挙では、代議員20名を選出します。代議員は会員の代表として総会で議決権を行使します。そのため、年齢、性別、専門、地域などで偏りのない幅広い層から選ばれることが重要です。若手からの立候補・推薦も大いに歓迎します。

2026年1月末頃に、皆様のお手元に2つの選挙の候補者推薦に関する会告を発送いたします。お手元に届きましたら、ご一読いただき、相応しい候補を推薦（代議員については立候補も可）いただきますよう、よろしくお願ひいたします。なお、前回の選挙から、新しい会員管理システムを導入しています。ログイン方法等に関する情報をご確認ください。

日本科学教育学会第315回理事会報告

日 時 2025年9月5日（金） 15:15～17:15  
会 場 広島大学 東広島キャンパス (D会場 K203)  
出席者 会長 隅田 学  
副会長 竹中真希子, 久保田善彦, 西村圭一  
理 事 松原憲治, 川上 貴, 松浦拓也, 山本容子, 山口悦司, 内ノ倉真吾,  
三宅志穂, 辻山洋介, 川越至桜, 中村大輝, 土佐幸子, 小松孝太郎,  
大谷 忠, 山本智一, 大貫麻美, 向平 和, 舟橋友香, 竹内慎一  
監 事 稲垣成哲, 土田 理  
事務局長 益子典文  
幹 事 黒田友貴, 鈴木宏昭  
陪 審 清水美憲, 林 敏浩, 谷塚光典

1. 議事要録（案）の承認

○第314回理事会議事録（案）を承認した。

2. 第315回理事会までの電子会議による審議事項と審議結果

○事務局からの発議により、25/7/31までに入会を希望した8名（会員番号[5120]から[5227]）と正会員からシニア会員への変更を希望した1名を電子会議により審査した結果、全員の入会及び会員種別の変更が承認された（2025年8月3日）。

○事務局からの発議により、25/8/31までに入会を希望した16名（会員番号[5128]から[5242]）を電子会議により審査した結果、全員の入会及び会員種別の変更が承認された（2025年9月2日）。

3. 報告事項

1) 庶務・事務局

○事務局より文書受理（刊行物送付を含む）や諸対応について報告があった。

2) 経理・会員

○住所不明者について報告があった。

3) 機関誌編集

○編集状況、次回特集、今後の特集、年会中の編集委員会主催ミーティングの準備状況について報告があった。

4) 調査研究・学術交流・男女共同参画ワーキング

○シンポジウムの開催について報告があった.

5) 国際交流

○国際ランチョン・ミーティング, JSSE 研究会について報告があった.

6) 年会企画

○第 49 回年会（広島）について報告があった.

7) 広報・学会 IT 化

○2024 年度のレター及び学会通信, WEB 等を活用した広報活動について報告があった.

8) 若手活性化

○委員会企画と研究会開催の準備状況, 50 周年記念事業に係る研究者リレーインタビュー, その他の活動について報告があった.

9) 日本科学教育学会創立 50 周年記念事業企画・実行委員会

科学教育啓発活動・イベント部門, 記念誌・シンポジウム部門, 科学教育研究促進部門

○創立 50 周年記念プレ行事, 研究者リレーインタビュー, シンポジウムの開催について報告があつた.

#### 4. 協議事項

1) 経理・会員

○退会希望者, 除籍対象者が承認され, 現在の会員数について確認された.

・現在会員数 : 1,449 名 (正会員 1,217 名, 学生会員 132 名, 名誉会員 21 名,  
公共会員 2 名, 賛助会員 2 名, シニア会員 75 名) (2025 年 9 月 5 日付)  
<前回会員数>1,412 名 (正会員 1,196 名, 学生会員 120 名, 名誉会員 21 名,  
公共会員 2 名, 賛助会員 3 名, シニア会員 70 名) (2025 年 6 月 2 日付)

2) 調査研究・学術交流・男女共同参画ワーキング

○研究倫理に関する基本方針の修正案等に関する説明があり, 微修正を行なった上で第 49 回定時代議員総会にて説明して意見聴取を行い, 次回理事会にて確定することが確認された.

3) 年会企画

○第 50 回年会を 2026 年 9 月 11 日（金）～13 日（日）に東京大学駒場 II リサーチキャンパスで開催し, 実行委員長を大島まり会員が務めることについて説明があり, 承認された.

4) 広報・学会 IT 化

○2025 年度レターおよび学会通信の発行日程について説明があり, 承認された.

5) 日本科学教育学会創立 50 周年記念事業企画・実行委員会

科学教育研究促進部門

○科学教育出版賞について説明があり、継続議論することが確認された。

5. 次回以降の理事会予定

- ・第 316 回：2025 年 11 月 22 日(土) 14:00～17:00 場所: ネット会議
- ・第 317 回：2026 年 3 月 21 日(土) 14:00～17:00 場所: ネット会議
- ・第 318 回：2026 年 6 月 13 日(土) 14:00～17:00 場所: 株式会社内田洋行 茅場町ファーストビル  
(予定、ハイブリッドでの開催)
- ・第 319 回：2026 年 日程未定 14:00～17:00 場所: ネット会議

## 一般社団法人日本科学教育学会第 49 回定時議員総会報告

日 時：2025 年 9 月 6 日（土）13:00～14:30

場 所：ハイブリッドでの開催 対面：広島大学 東広島キャンパス（S 会場 K201）

次 第

(進行：松原憲治 理事)

1. 開会の辞

(竹中真希子 副会長)

2. 第 49 回年会開催校代表挨拶

(松見法男 広島大学)

人間社会科学研究科長)

3. 第 49 回年会実行委員長挨拶

(馬場卓也 実行委員長)

4. 会長挨拶

(隅田学 会長)

5. 議長選出

定款第 36 条により、隅田学会長を議長に選出

6. 議事録署名人委任

(隅田学 会長)

議事録署名人を、馬場卓也（広島大学）、大島まり（東京大学）の両会員に委任することを承認した。

7. 審議

(議長：隅田学 会長)

代議員総会出席者 29 名、委任状 8 通で代議員総会成立を確認した。（川上貴 理事）

1) 第 1 号議案の提案

(川上貴・松浦拓也 理事)

2024 年度事業報告書及び収支決算書の説明と提案行われ、第 1 号議案は代議員 37 名（出席者 29 名、委任状 8 名）が賛成し、承認可決された。

2) 監査報告

(稻垣成哲・土田理 監事)

監査の結果、一般社団法人日本科学教育学会のすべての会計処理が適正に行われていたことを確認した旨が報告された。

3) 第2号議案の提案 (川上貴・山本容子 理事)

2025年度事業計画書及び収支予算書（案）の説明と提案が行われ、第2号議案は代議員37名（出席者29名、委任状8名）が賛成し、承認可決された。

8. 報告 (隅田学 会長)

研究倫理に関する基本方針について報告があり、意見聴取の依頼があった。

9. 議長解任

10. 表彰

1) 学会賞選考委員会での選考経過の報告 (三宅志穂・辻山洋介 理事)

2) 表彰 (隅田学 会長)

大塚賞

・小川義和（立正大学 教授、埼玉県立川の博物館 館長、国立科学博物館 名誉館員）

功労賞

・藤岡達也（滋賀大学 名誉教授）

・村山 功（静岡大学 教授）

・三崎 隆（都留文科大学 特任教授）

奨励賞

・大谷洋貴（大妻女子大学）

・江草遼平（千葉商科大学）

科学教育実践賞

・中原久志（大分大学）、竹中真希子（大分大学）、山下茂（大分大学）、

大分大学 STEAM Lab.

論文賞

・舟橋友香（奈良教育大学）、新井しのぶ（中村学園大学）、雲財 寛（広島大学）、岡部 舞（大阪教育大学）、下平剛司（福岡大学）、田中秀志（東京理科大学）、中村大輝（宮崎大学）

・木村優里（東京科学大学）、高野未羽（学研ココファン・ナーサリー）

年会発表賞

・嶋田亘佑（広島大学大学院/日本学術振興会特別研究員（DC2））、野村優成（広島大学大学院/日本学術振興会特別研究員（DC2））、磯崎哲夫（広島大学大学院）

・中村謙斗（島根大学、東京理科大学大学院、東京学芸大こども未来研究所）、山下雅代（東京学芸大学）、遠藤太一郎（株式会社カナメプロジェクト、東京学芸大学）、中田一朗太（東京学芸大学）

・野村優成（広島大学大学院/日本学術振興会特別研究員（DC2））、嶋田亘佑（広島大学大学院/日本学術振興会特別研究員（DC2））、磯崎哲夫（広島大学大学院）

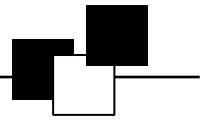
・吉村健志（東京学芸大学大学院）、大谷 忠（東京学芸大学大学院）

11. 次年度第50回年会実行委員長挨拶 (大島まり 実行委員長)

12. 副会長挨拶 (久保田善彦 副会長)

13. 閉会の辞 (西村圭一 副会長)

## 合同会議報告



2025 年度顧問・理事・代議員・支部長合同会議は、会長、副会長（3 名）、代議員（26 名）、顧問（2 名）、支部長（4 名）、理事（21 名）、監事（1 名）、事務局長（1 名）、庶務幹事（1 名）、経理・会員幹事（1 名）、年会企画委員長、年会実行委員長、50 周年企画実行委員長、の実出席者数 43 名（ただし、役員役職の重複あり）が出席して開催された。最初に、馬場卓也年会実行委員長から歓迎の挨拶、隅田学長から 50 周年記念事業の進展や研究倫理に関する基本方針の策定など、学会の近況報告があった。続いて、参加者の自己紹介・近況報告が行なわれ、参加者間での意見交換がなされた。その後、2024 年度事業報告および修正決算書についての説明、2025 年度事業計画および収支予算（案）について説明があった。最後に、次回の年会（東京大会）のアナウンスと大島まり実行委員長からの挨拶があった。

## 第 49 回 年会発表賞の決定

学会賞選考委員会では、第 49 回年会発表賞について、会員からの推薦にもとづいて慎重に審議を重ね、候補者の選考を進めてまいりました。2025（令和 7）年 11 月 22 日に開催された第 316 回理事会の議を経て、下記 3 件が 2025 年度年会発表賞に選ばれました。誠におめでとうございます。「\*」は現在非会員の方ですが、2026 年 2 月末までに入会された場合は受賞対象となります。

発表者：大川翔平（筑波大学人間総合科学学術院、伊豆市立伊豆中学校）、遠藤優介（筑波大学人間系）、山本容子（筑波大学人間系）

発表論文：ドイツ科学系教科におけるプロジェクトの提案段階の指導と支援—in Projekten Serie における前期中等教育段階の化学分野と物理分野の事例に着目して—、日本科学教育学会第 49 回年会論文集、495-498、2025

選定理由：ドイツ中等教育におけるプロジェクトの提案段階に着目し、教師の指導・支援についての示唆を導出しており、応用性、発展性がある。

発表者：大谷洋貴（大妻女子大学）、\*小泉友（立川市立西砂小学校）、\*尾形祐樹（東京学芸大学附属小金井小学校）、\*岡本真優子（八王子市立清水小学校）、\*落合達也（杉並区立高井戸第二小学校）、\*高井淳史（小平市立小平第七小学校）、石井雅幸（大妻女子大学）、\*阪本秀典（帝京大学）、\*渡辺秀貴（創価大学）

発表論文：数学カリキュラムにおける「1 とみる」の再定位—ビッグアイデアとしての教育的意義—、日本科学教育学会第 49 回年会論文集、425-428、2025

選定理由：ビッグアイデアという視点から「1 とみる」という考え方について検討しており、応用性、発展性がある。

発表者：内窪夏希（筑波大学人間総合科学学術院）

発表論文：数学的な才能に対する数学科教師の認識と構えに関する研究—SSH 校におけるインタビュー調査の分析を通して—、日本科学教育学会第 49 回年会論文集、671-674、2025

選定理由：教師の認識に着目し、質的分析を通じて才能教育について考察しており、新規性、発展性がある。

## 公示

### 2026（令和8）年度学会賞候補者の募集

一般社団法人日本科学教育学会 大塚賞，同学術賞，同国際貢献賞，同論文賞，同科学教育実践賞，同功労賞，及び同奨励賞の候補者を下記により募集します。会員の皆様からの多数の推薦をお願い申し上げます。

#### 1. 推薦期限

2026年（令和8年）5月11日（月）（必着）

#### 2. 推荐資格

- (1) 推薦者は会員とする。
- (2) 会員は、各賞について、それぞれ1件のみ推薦できる。
- (3) 各賞の推薦は他薦のみとする。
- (4) 推薦者は、推薦書の様式を学会ホームページの「各種書式」(<https://jsse.jp/downloadcategory/template>)からダウンロードの上、その様式にしたがって作成した推薦書を学会事務局に提出する。

#### 3. 受賞資格

一般社団法人日本科学教育学会 学会賞表彰規程 (<https://jsse.jp/regulation/26-2>) を参照する。

\*奨励賞の受賞資格にご注意ください。

#### 4. 受賞件数

各賞の受賞件数は特に定めない。

#### 5. 選考

会員からの推薦に基づいて、学会賞選考委員会が候補者を選定し、理事会が決定する。

#### 6. 賞

- (1) 本賞は賞状とする。
- (2) 賞の贈呈は、2026年度代議員総会において行う。

#### 7. 備考

論文賞の対象は、『科学教育研究』Vol.47, No.2以降に掲載の論文とする。

奨励賞の対象は、『科学教育研究』Vol.48, No.2以降、『研究報告』Vol.38, No.5以降及び第48回・第49回年会論文集に掲載の論文等とする。

## 50周年記念 科学教育出版賞

公示

### 日本科学教育学会 50周年記念 科学教育出版賞のお知らせ

日本科学教育学会 50周年記念特別企画として出版賞を下記により募集します。この賞は、会員が科学教育の研究・教育・普及に貢献した著作物等を表彰し、出版活動を奨励するとともに、科学教育の意義を広く社会に発信することを目的とします。会員の皆様からの多数の推薦をお願い申し上げます。

#### 1. 推薦期限

2026年（令和8年）4月24日（必着）

#### 2. 推荐資格

- (1) 推薦者は会員とする。
- (2) 会員は1件のみ推薦できる。
- (3) 推薦は他薦のみとする。
- (4) 推薦者は、推薦書の様式を学会ホームページからダウンロードの上、その様式にしたがって作成した推薦書を学会事務局に提出する。

#### 3. 受賞対象

- ・授賞対象は、主要な編著者が会員である著作物等とする。なお、推薦書には著作物に関わる主要な会員名の前に○をつけること。
- ・対象となる著作物等は、原則として、最新の版が推薦期限の日から過去5年以内のものとする。
- ・「著作物等」には、書籍、雑誌、ビデオ、DVD等を含む。ただし、論文は本賞の授賞対象としない。  
(授賞対象となる著作物等)
  - ・科学教育の研究・教育・普及啓発に資する著作物とし、読者の対象は限定しない。なお、文部科学省検定教科書は対象外とする。
  - ・日本語の著作物だけでなく、英語による著作物等(著作物を翻訳し、世界に普及させたものも含む)も授賞対象とする。
  - ・審査時点で入手可能な著作物等のみを授賞の対象とする。

#### 4. 受賞件数

各賞の受賞件数は特に定めない。

#### 5. 選考

会員からの推薦に基づいて、日本科学教育学会 50周年記念選考委員会が候補者を選定し、理事会が決定する。

#### 6. 賞

- (1) 本賞は賞状とする。
- (2) 賞の贈呈は、2026年度代議員総会において行う。

## 科学教育啓発活動・イベント部門

### 創立 50 周年記念行事

学会創立 50 周年を記念する行事として第 50 回年会（東京大学・駒場キャンパス 2026/9/11-13 予定）において、「ラウンドテーブル」と「小中高生の探究発表」を開催します。

また、国際交流委員会が開催する「国際ランチョン・ミーティング」に中学生・高校生も参加できるよう企画しております。

詳細が決まり次第、随時お知らせを更新いたします。

[創立 50 周年記念行事 Web サイト]

<https://jsse.jp/jsseam/jsse50/jsse50th-event>

日本科学教育学会創立 50 周年記念イベント部門

jsse50th.event(atmark)gmail.com

アドレスの(atmark)の部分は@です。

第 49 回年会において、学会創立 50 周年記念プレイベントとして、会員、一般参加者に中高生を交え、「平和と科学と教育」をテーマとするラウンドテーブルを開催しました。話題提供をしてくれた広島大学附属高校の生徒さんが伝えてくれた、振り返っての思いの一部をご紹介します。

- ◆ 自分たちが発信している、伝える気持ち、心、考えは東洋哲学・科学に分類されるものであることを初めて知りました。多くの実践的な経験を積むことは大切だけれど、それができるようになると学問を通して学ぶという時間をとることを忘がちになっていること、ふわふわした考え方で話し合いを進めてしまったことに気付きました。というのは、今回のラウンドテーブルでの話し合いで色々な分野の専門家からの話を聞くと、考えが深まっていく実感がしたからです。複数の学問分野の枠を使うことで、「学問での学び→実践的な経験の結びつきを考える→学間に立ち返る」のようにすれば、もっと議論も活発に、そして自ら進んでできるようになるのではないかと思いました。
- ◆ 発表の準備を始めた当初は、「平和と科学と教育」は独立していて関わりの少ないものだと思っていたが、今回のラウンドテーブルで様々な意見を聞くことができ、3つの関係が少し理解できるようになったと感じた。話し合いを通して、「科学」が「平和」を促進または破壊するということを「教育」を通して学び、戦争を自分事として捉えることが平和につながるのではないかと考えた。
- ◆ 大学で講師をされている方や海外で教育に携わっている方など幅広い年齢や分野からの意見を聞くことができ、「平和と科学と教育」についての考えがより深まった。高校生の参加者からは同年代だからこそ共感できる意見を聞くことができたと共に、自分と異なる視点を持っていることに気づくこともでき刺激をもらえた。それぞれが思ったことをすぐに書き出せる「ラウンドテーブル」はグループのメンバーがどう思いをめぐらせたのか、何と何を繋げて考えたのかがよくわかり、意見を一つにまとめるのに役立った。

# 年 会

## 第 50 回年会 開催案内（第 2 次）

年会企画委員会・年会実行委員会

1. 日程：2026 年 9 月 11 日（金）～13 日（日）（3 日間を予定）

2. 会場：東京大学 駒場 II リサーチキャンパス  
(〒153-8505 東京都目黒区駒場 4-6-1)  
<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/access/>

3. スケジュール概要（予定） ※プログラム編成により変更になる場合があります。

11 日（金）午前：研究発表  
午後：研究発表 理事会（改選前）顧問・理事・支部長・代議員合同会議

12 日（土）午前：研究発表 招待講演  
午後：代議員総会・表彰 50 周年記念シンポジウム 懇親会

13 日（日）午前：研究発表  
午後：理事会（改選後） 研究発表（申し込み状況により設定）  
\*その他、50 周年記念企画、各委員会による企画、各委員会の会合等があります。

4. 発表申込等について

研究発表（課題研究発表、一般研究発表、インタラクティブセッション）の申込・原稿提出のスケジュールは、次号『科学教育研究レター』等でお知らせします。

5. 連絡先：日本科学教育学会第 50 回年会実行委員会

E-mail : jsse50(atmark)iis.u-tokyo.ac.jp アドレスの(atmark)の部分は@です。

6. 第 50 回年会実行委員会

委 員 長 大島 まり（東京大学）

委 員 川越 至桜（東京大学）・上田 史恵（東京大学）・橋木 悠亮（東京大学）  
玉澤 春史（東京大学）・沼田 宗純（東京大学）・森 晶子（東京大学）

7. 年会企画委員会

委 員 長 服部裕一郎（岡山大学）

副委員長 福田博人（岡山理科大学）、畠山 久（東京科学大学）

幹 事 石橋一昂（岡山大学）

担当理事 大谷 忠（東京学芸大学），山本智一（兵庫教育大学）  
委 員 安部洋一郎（兵庫大学），新井しのぶ（中村学園大学），岡部 舞（大阪教育大学），  
小野寺かれん（岡山大学），川越至桜（東京大学），川崎弘作（岡山大学），  
木村優里（東京科学大学），小泉健輔（横浜国立大学），平林真伊（山形大学），  
増田有紀（埼玉大学），谷田親彦（広島大学），山中真悟（福山市立大学），  
山本輝太郎（金沢星稜大学）

## 2025 年度研究会開催のお知らせ

### 今後の開催計画

開催支部/委員会	開催日	発表申し込み締切日	会場
国際交流委員会	終了しました	終了しました	オンライン
若手活性化委員会	終了しました	終了しました	大阪教育大学 天王寺キャンパス (一部オンライン)
東北支部	2025 年 12 月 20 日(土)	終了しました	秋田大学 手形キャンパス
北陸甲信越支部	2026 年 2 月 7 日(土)	2026 年 1 月 8 日(木)	富山大学
北関東支部	2026 年 3 月 15 日(日)	2026 年 2 月 13 日(金)	埼玉大学
四国支部	2026 年 5 月 30 日(土)	2026 年 4 月 30 日(木)	鳴門教育大学
中国支部	2026 年 6 月 14 日(日)	2026 年 5 月 15 日(金)	岡山大学

研究会に関する最新情報は学会 Web ページに掲載しますので、ご確認ください。

※右の QR コードより、学会 Web ページ（研究会案内）にアクセスできます。

<https://jsse.jp/1-3>



### 2025 年度 第 3 回日本科学教育学会研究会（東北支部開催）

[テーマ] 科学教育の現在とこれから

[主 催] 一般社団法人 日本科学教育学会

[日 時] 2025 年 12 月 20 日(土) 10:00～16:30 (終了時刻は予定)

[会 場] 秋田大学手形キャンパス 一般教育棟 2 号館

〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町 1 番 1 号

[対 象] 会員、教員、学生、社会人

[参加・発表申込]

発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方もご参加いただけます。

参加費は無料です。

参加を希望される方は、以下の URL より必要情報をご記入の上、送信してください。

参加申込: <URL : <https://forms.gle/83vyCXQvDErAxzhUA>>

発表を伴わない場合、当日の参加も可能ですが、できるだけ事前の申し込みをお願いします。

多数の方々の申込みをお待ちしております。

日本科学教育学会 東北支部長 加藤 慎一 (秋田大学)

## 2025 年度 第 4 回日本科学教育学会研究会（北陸甲信越支部開催）

[テーマ] 科学教育研究の理論と実践

[主 催] 一般社団法人 日本科学教育学会

[日 時] 2026 年 2 月 7 日(土) 10:00~17:00

[会 場] 富山大学教育学部 1 棟 112 講義室, 113 講義室

〒930-8555 富山市五福 3190 番地

[対 象] 会員, 教員, 学生, 社会人

[参加申込・締切]

- ・発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方もご参加いただけます。
- ・参加費は無料です。
- ・参加を希望される方は、以下の URL より必要情報をご記入の上、送信してください。

参加申込: <URL : <https://forms.gle/soMVCDH38P4Uinpz7>>

参加申込締切は 2026 年 1 月 19 日(月)です。

[発表申込・論文提出締切]

- ・発表は、単名または連名発表者に 1 名以上の会員を含むことが条件となります。発表申込の際に「入会申込」が完了していれば、会員として扱うこととします。
- ・発表を希望される方は、以下の URL より必要情報をご記入ください。

発表申込: <URL : <https://forms.gle/soMVCDH38P4Uinpz7>>

※連名発表者の氏名と所属は可能な限り原稿掲載順にご記入ください。

※タイトルは可能な限り申込時と同様のものを原稿に記載してください。

※プログラムは申込時の情報を元に作成されます。連名発表者やタイトルを変更されるとプログラムに反映されないことがあります。その際には、ご了承ください。

※J-STAGE に公開する『科学教育研究報告』の目次は、投稿時の原稿に示された著者とタイトルを元に作成されます。

- ・発表申込締切、および、原稿投稿料の支払いと原稿の提出締切は、2026 年 1 月 8 日(木)です。

**【重要事項】** 原稿の提出と入金の両方が確認されない場合には、自動的に発表は取り消しとなりますので、くれぐれもご注意ください。また、入金された投稿料はいかなる理由があっても返金されません。他の研究会への振替もできません。返金等に関する問合せにも一切対応いたしませんので、予めご了承ください。発表申込みの準備は計画的に行っていただきますようお願い申し上げます。

- ・連名発表者の研究会への参加申込は各自個別に行ってください。発表申込をした第一著者は、参加申込の必要はありません。

研究会研究報告の原稿執筆要項は学会ホームページをご参照ください。

<URL : <https://jsse.jp/1-3/115-2>>

研究会研究報告のテンプレートは学会ホームページをご参照ください。

<URL : <https://jsse.jp/1-3/125-2>>

原稿は次のウェブサイトから投稿してください。

<URL : <https://jsse-kenkyukai-form.jp/>>

研究会情報のプルダウンメニューで「北陸甲信越支部」を選んでください。

投稿完了メールは<info(atmark)jsse-kenkyukai-form.jp>より自動送信されます。このアドレスからのメールを受信できるように、あらかじめフィルタ設定等をご確認ください。  
アドレスの(atmark)の部分は@です。

多数の方々の申込みをお待ちしております。

日本科学教育学会 北陸甲信越支部長 谷塚光典（信州大学）

## 2025 年度第 1 回日本科学教育学会研究会（国際交流委員会開催）

### 開催報告

2025 年度第 1 回研究会（国際交流委員会開催 英語による研究会）を 2025 年 11 月 29 日（土）の午前にオンライン（Zoom 利用）で開催し、40 名程度の方にご参加いただきました。

昨年に引き続き、海外の研究者 2 名によるゲストトークと一般発表で構成しました。ゲストトークでは、Nanyang Technological University, Singapore の Ban Heng Choy 先生と Universitas Pendidikan Indonesia, Indonesia の Irma Rahma Suwarma 先生にご登壇いただきました。

Choy 先生には、今後 AI がますます普及する時代に教師が果たすべき役割について、教師の気づき（noticing）という概念に着目してご講演いただきました。Suwarma 先生は、STEM 教育の充実を目指したインドネシアの取り組みについて、具体的な事例を取り上げてご講演くださいました。

一般発表では、14 件の英語による発表があり、3 つのブレイクアウトルームに分かれて活発な議論がなされました。多くの留学生にもご参加いただき、国際的な視点で科学教育の課題を議論する貴重な機会となりました。

参加者からの事後アンケートの結果も非常に好評でした。いただいたフィードバックの内容を踏まえながら、国際交流委員会として、今後も研究会の充実に努めていきたいと考えております。

最後になりましたが、今回の研究会の開催にあたりご協力いただきました研究会企画委員会の理事・幹事の皆様、隅田会長、そして発表者・参加者の皆様に感謝申し上げます。

担当：小松孝太郎（筑波大学）

## 2025年 日本科学教育学会研究会（若手活性化委員会開催）概要報告

2025年12月6日（土）に、若手活性化委員会が担当する研究会を大阪教育大学天王寺キャンパスおよびオンデマンド会場（Slack）で開催しました。本研究会は、『科学教育研究』の若手会員を対象とした特集「次世代を担う若手研究者の科学教育研究」（通称：若手特集）とタイアップしています。今回の研究会について、本号ではその概要を、次号では詳細を報告します。

### 1. 参加者交流企画：研究交流カフェ

研究会の午前中は、参加者同士が「研究」を中心とした交流と情報収集を行うことを目的とした企画が催されました。「インタラクティブ型」「投影型」「設置型」の3つの形態の企画が用意され、形態ごとに以下のようなブースが展開されました。

インタラクティブ型	投影型	設置型
1. リサーチコネクト (どんな人がいるかを知る) 2. トークテーマの抽出・整理 3. 研究交流 (コーヒーブレイクをしながら 研究交流)	映像を放映 - 論文執筆 Tips 動画 - リレーインタビュー	- 壁面アンケート - 受賞論文コレクション (論文賞、奨励賞の過去5年 分を紹介)

参加者は、自由な順路で各ブースを回りながら意見交流したい人やテーマを探し、研究の悩みや実践のアイデアなどを気軽に語り合いました。初参加者を含む多様な層が、自分のペースで交流を楽しみながら、“今日持ち帰りたい問い合わせテーマ”を自然に見つけられる構成となっており、学会内での関係形成と研究的視点の共有が同時に進む、にぎやかで温かい時間となりました。



ブースでの研究交流の様子

## 2. 研究発表

午後はポスターセッション形式での研究発表が行われました。本研究会で研究発表を行うことで、『科学教育研究』若手特集に論文を投稿する条件の一部を満たすことができます。

今回の研究会では、46件の研究発表が行われました（対面38、オンデマンド8件）。また、当日は90名の方に対面参加いただき、研究に関して活発な発表・議論が行われました。

なお、オンデマンド会場は2026年1月12日（月）まで開催を続けています。みなさまもぜひご参加いただき、ご関心のある研究発表にはコメントをいただければと思います。

〈参加方法のマニュアル〉

<https://drive.google.com/file/d/18z1wZ1NHM7ii1hI2MQkJ-yYPmYl1A019/view?usp=sharing>

〈オンデマンド会場 Slack 招待リンク〉

[https://join.slack.com/t/20252-workspace/shared\\_invite/zt-3etm5722o-i3UWd0d49M1JAC0P5OSD4A](https://join.slack.com/t/20252-workspace/shared_invite/zt-3etm5722o-i3UWd0d49M1JAC0P5OSD4A)



ポスターセッションの様子

若手活性化委員会が開催する研究会では、オンデマンド発表を含む発表の中から、優秀な研究発表に対して「ベストプレゼンテーション賞」を授与しています。今回の対面発表での受賞者は、学生・修士の部1名、一般の部2名でした。次号では、オンデマンド発表に対するベストプレゼンテーション賞の結果も含めて、詳細を報告する予定です。

## 〈その他〉

若手活性化委員会では、論文執筆に関して気軽にノウハウを学ぶことができるオンデマンド動画「Tips動画」をYouTube上で公開しています。「文章の書き方」「先行研究の調べ方」「本の読み方」「イントロの書き方」「考察の執筆で大切にしたいこと」等など、役立つTipsを動画で学ぶことができます。ぜひご視聴ください。

[https://www.youtube.com/playlist?list=PLIXmLhKl7Y2tumBx1LX\\_GCPbCghsc3LeS](https://www.youtube.com/playlist?list=PLIXmLhKl7Y2tumBx1LX_GCPbCghsc3LeS)

上のリンクは一般公開シリーズです。会員限定公開シリーズについては、メール等でリンクをお知らせいたします。

また、研究会に関わる情報は学会HPのほか、若手活性化委員会Facebookページやメーリングリストで随時公開していきます。どうぞご期待ください。

Facebookページやメーリングリストの登録は、随時、受け付けています。ぜひご登録ください。

### ○若手活性化委員会 Facebook

<https://www.facebook.com/jseewakate/>

### ○JSSE 若手研究者メーリングリスト登録 URL

<https://goo.gl/tClQb4>

(高知大学：袴田綾斗)

## 若手研究者、「初心」を語る

光陰矢の如し。年末が近づくといつも実感しますが（そして年を重ねるごとにその実感が強くなっていますが），年の瀬の慌ただしさに、この言葉のもつ「だから日々を大切に過ごそう」という含意を忘れがちです。私たちは日々出会うものごとに意味を見出します。しかし、本来は多様な相貌をもつはずのものごとの意味も、忙しい生活の中で、単一のわかりやすい意味として処理されてしまっているかもしれません。今回は、本学会理事（若手活性化委員会担当）の舟橋友香先生に、日々の生活、そして科学教育の研究と実践に携わるキャリアの中で訪れた、「ものごとの意味」を捉え直す経験についてご寄稿いただきました。

### ものごとがもつ意味の編み直し

奈良教育大学 舟橋 友香

11月の週末、2年生に対する算数授業を公開するという経験をした。

自らの学びを深めるために全国から集結する経験豊富な学校教員に対して、算数の教壇に立っていない私が何を観せるのか。普段偉そうにコメントしているくせに、と後ろ指を刺されるのではないか。とても悩んだ。

思えば、私はもともと学校教員を目指していた。中学校時代、数学教師の心を揺さぶる話に強烈に惹き込まれていたことを、強く覚えている。教員になるために大学・大学院に進学した私は、研究という魅力的な世界の切り取り方を知り、少しアプローチを変え、教育研究に携わる職に就いた。

しかし現実は、研究の世界にだけ留まることを許してはくれない。思考や語りのモードの切り替えが必要な地域の研究会や学校での講師の仕事、無限に時間と労力を要する大学業務や学会運営、あらゆることを強制終了させる育児。自分の中の「分人」をどこか肯定できない気持ちが、ずっとまとわりついてくる。

だが、小学校での公開授業を終えた後に残ったのは、腑に落ちる、という感覚であった。

「そうか。自分がやっていることは、“表現”が違うだけなんだ。」

不思議だが、そのような境地に至った。

論文という媒体が得意とする表現もあれば、授業という行為でしか立ち上がらない表現もある。これまで向き合ってきたことは、講師という立場、母親という立場、そのときどきの立場でこそ可能な表現に丁寧に向き合うことであったと、意味を編み直すことができた。

息子は、料理屋さんごっこが大好きである（園のお友達には内緒らしい）。

昨夜は、野菜の収穫の場面から説明してくれた。

「この畑は、AIが全部管理してくれています。」

本人は意識していたか分からぬが、サバイバルの達人たちが活躍するアニメに出てきた、AIで制御された世界のお話を色濃く反映していて笑ってしまう。

人の思考、人生の選択に影響を与えるものは、当人の自覚の有無に関わらず、他者による「表現」ではないか。辞書によると、「コンテクスト」の原義は、「con-（一緒に）」「text（織られた）」、すなわち「編

み合わせたもの」にあるという。これまでに出会ってきた表現、その場を共にしている相手、状況、さまざまなことが一緒に編み合わされて、文脈は形づくられていく。

はじめましての2年生の子どもたちが私に与えてくれたように、いつかどこかで誰かの「編み合わせる営み」のきっかけとなるような、手触りのある「表現」を、世界に残していきたいと思った。

## 2025 年度第 1 回編集理事会報告

2025 年度第 1 回編集理事会は、2025 年 11 月 10 日に、オンライン会議システム Zoom を利用した遠隔会議で開催された。第一に、第 50 巻の巻頭言の執筆者が決定された。第二に、論文投稿時における人に関わる研究の倫理的事項に関する開示について、種々議論の上、継続審議となった。

その後、オープンアクセスジャーナル化検討部会の検討状況、特集「次世代を担う若手研究者の科学教育研究（2025 年 12 月発刊予定）」（第 49 巻、第 4 号）の編集状況、特集（学会創立 50 周年：50(2)+51(2)）の編集状況、特集「次世代を担う若手研究者の科学教育研究（2025 年 12 月発刊予定）」（第 49 巻、第 4 号）の準備状況、「科学教育研究」全体の編集状況、J-STAGE 投稿審査システムの運用・利用用件改定、中国における学術調査に関する注意事項、投稿論文における生成 AI 利用の取り扱いなどが報告された。併せて、継続協議事項、今後の編集理事会・編集委員会の予定、科学教育研究レター・学会通信発行予定についての確認などが行われた。

次回の編集理事会は、2026 年 3 月に、遠隔会議での開催が予定されている。

## 特集投稿募集のお知らせ

編集委員会では、若手活性化委員会と連携し、下記の主旨で「科学教育研究」第50巻第4号での特集を企画します。研究論文、総説・展望、資料、プラザ、全ての種別の原稿を募集いたします。ふるってご投稿のほどお願い申し上げます。

なお、投稿規程により、「科学教育研究」への投稿論文は、筆頭著者が日本科学教育学会の会員である必要があります。また、この特集には投稿条件が設定されています。その点ご注意ください。

編集委員長 青山和裕  
特集編集部会長 荒谷航平  
若手活性化委員会委員長 岡本紗知

### 記

#### 特集名：次世代を担う若手研究者の科学教育研究

将来の科学教育研究を牽引する人材を本学会から輩出することを大きな目的として、また若手研究者のキャリアパス形成を支援することを目的として、若手会員を対象とした特集（以下、若手特集と称する）によって若手会員の研究活動を支援する取り組みが2017年に始まった。2025年で9回目となる。これまで多くの若手会員に研究会発表と論文投稿を促し、『科学教育研究』第42巻以降の各巻第4号に、多くの若手会員の研究成果を掲載してきた。2025年も若手特集によって若手会員の研究活動のさらなる支援と、研究成果の公表機会の提供を行う。

2024年度までの若手特集では、若手活性化委員会の下部組織としてサブミッション・アドバイザリーボードを設置し、若手特集への投稿希望者に対する助言を組織的に実施してきた。2025年度には、サブミッション・アドバイザリーボードを発展的に解消し、若手活性化委員会による論文投稿支援方策の新たな試みとして、①論文執筆に関する動画集の公開、②論文執筆のための対面サポート、という2つの取り組みを実施した。今回の若手特集では、これら新たに導入した論文投稿支援の実施体制を継続する計画である。なお②に関しては、論文の構想段階からの支援の充実を意図して年会時（9月）に実施することとした。ただし、これらの支援を受けることは、あくまで任意であり、今回の若手特集の投稿条件ではない。

なお、若手特集編集部会メンバーは過去の若手活性化委員会構成員を中心に構成し、若手活性化委員会による論文投稿支援者と若手特集における査読者の重複を避けるという、これまでの方針を継承することで、若手会員の研究活動支援及び本学会の学術的発展のための特集とともに加えて、若手活性化委員会の活動理念を共有した過去の若手活性化委員会構成員および若手会員のキャリアパスの形成にもつなげることを今回の若手特集においても目指す。

また、若手特集への投稿条件については、若手会員への支援を積極的に提供するために、今回の若手特集においても、これまでの投稿条件を継承する。したがって、若手活性化委員会が担当する研究会（開

催予定：2025年12月6日（土），大阪教育大学，対面開催（一部オンライン）での研究発表が今回の若手特集の投稿条件となっている。詳細は、下記の投稿条件を確認されたい。若手特集は、重要性がより増してきている学位取得に向けた若手会員の足掛かりとなり、そして科学教育という学術領域の一層の充実と発展を促す場となることを目指している。多くの若手会員からの投稿を期待している。

#### 特集編集部会の構成メンバー

部会長：荒谷航平（北海道教育大学）

副部会長：花園隼人（宮城教育大学），大谷洋貴（大妻女子大学）

特集編集部会委員：（調整中）

#### 投稿条件

以下の（1）～（3）の3点の条件すべてを満たした論文投稿を受け付けます。これらの条件を満たしていないと判断された論文につきましては、一般論文としての査読対象とさせていただきます。あらかじめご承知おきください。

- （1）以下の（a），（b），（c）のいずれかを満たす学会員が、投稿論文の筆頭著者となっていること。
  - （a）投稿締切日時点で、39歳以下である。
  - （b）投稿締切日時点で、修士課程、博士課程、専門職学位課程のいずれかに在学している。
  - （c）投稿締切日時点で、修士課程、博士課程、専門職学位課程のいずれかを修了または退学後8年未満（※1）であるか、博士の学位取得後8年未満（※2）である。
  
- （※1）投稿締切日までに修士課程、博士課程、専門職学位課程のいずれかを修了または退学後に取得した産前・産後の休暇、育児休業の期間を除くと修了または退学後8年未満となることを含む。
- （※2）投稿締切日までに博士の学位を取得見込みの者及び博士の学位を取得後に取得した産前・産後の休暇、育児休業の期間を除くと博士の学位取得後8年未満となることを含む。
  
- （2）若手活性化委員会が担当する研究会（開催予定：2025年12月6日（土），大阪教育大学，対面開催（一部オンライン））で、筆頭著者として研究発表を行っていること。
  
- （3）上記（2）の研究発表内容に基づいた論文であること。

事前申込締切：2026年2月末日

限られたスケジュールの範囲で査読プロセスを円滑かつ確実に進めるため、事前申込を必須とします。投稿を予定している方は大変お手数ですが、メールタイトルを「特集：次世代を担う若手研究者の科学教育研究の事前申込」とし、以下の事前申込内容をjsse-hen [atmark] nacos.comまでお送りください。

--- (事前申込内容ここから)

## 特集：次世代を担う若手研究者の科学教育研究の事前申込

・著者名・所属：

・仮タイトル：

・論文種別：

・E-mail アドレス：

・電話番号：

・連絡先住所：

・投稿条件（1）について：

※満たしている項目の [ ] 内に●を記入してください。

[ ] (a) 投稿締切日時点で、39歳以下である。

[ ] (b) 投稿締切日時点で、修士課程、博士課程、専門職学位課程のいずれかに在学している。

[ ] (c) 投稿締切日時点で、修士課程、博士課程、専門職学位課程のいずれかを修了または退学後 8 年未満（※1）であるか、博士の学位取得後 8 年未満（※2）である。

（※1）投稿締切日までに修士課程、博士課程、専門職学位課程のいずれかを修了または退学後に取得した  
産前・産後の休暇、育児休業の期間を除くと修了または退学後 8 年未満となることを含む。

（※2）投稿締切日までに博士の学位を取得見込みの者及び博士の学位を取得後に取得した産前・産後  
の休暇、育児休業の期間を除くと博士の学位取得後 8 年未満となることを含む。

--- (事前申込内容ここまで)

投稿受付開始：2026年1月1日

投稿締切：2026年3月31日

\*特集に投稿する場合は、投稿システムの「手順 5：設問」画面の「掲載号」で「特集号」を選択して  
ください。

\*投稿論文には、日本科学教育学会研究会研究報告に加筆した旨の記載をお願いします。（執筆要領 4.(2)  
参照）

\*査読は、投稿締め切り後に開始します。

発刊予定：2026年12月

### 投稿論文の取り扱い

本特集の刊行までに採択されない投稿論文については、一般論文としての査読を継続いたします。

以上

## 「科学教育研究」編集状況報告

1. 新規投稿論文（2025.10.1～2025.11.30）： 23 編

### 【内訳】

和文 22 編

英文 1 編

2. 査読中論文（2025.11.30 現在）： 41 編

### 【内訳】

著者に差し戻し中（受付前）： 2 編

担当編集委員選出中： 17 編

査読者選出中： 0 編

査読者諾否待： 0 編

査読中（1回目）： 4 編

担当編集委員による第1審総合判定中： 3 編

改訂稿待ち： 7 編

査読中（2回目）： 5 編

担当編集委員による第2審総合判定中： 3 編

編集委員長による最終判定中： 0 編

3. 掲載決定論文（2025.10.1～2025.11.30）： 2 編

### 【内訳】

研究論文： 2 編

総説・展望： 0 編

資料： 0 編

プラザ： 0 編

### 【合計】

49-4 号： 1 編（通算 10 編）

50-1 号： 1 編（通算 1 編）

4. 投稿状況及び掲載決定状況の推移 (2022.11.1～2025.11.30 現在)

	新規投稿論文数（編）		審査中（編）		掲載決定論文数 (掲載号)		掲載不可論文数 (見なし取り下げを含む)	
	和 文	英 文	和 文	英 文	和 文	英 文	掲載不可	取り下げ
2022年 11月	12	0	31	0	0 (46-4) 1 (47-1)	0 (46-4) 0 (47-1)	4	1
2022年 12月	6	0	34	0	1 (47-1) 0 (47-2)	0 (47-1) 0 (47-2)	2	0
2023年 1月	7	0	30	0	2 (47-1) 0 (47-2)	0 (47-1) 0 (47-2)	9	0
2023年 2月	8	0	31	0	0 (47-1) 4 (47-2)	0 (47-1) 0 (47-2)	3	0
2023年 3月	17	0	35	0	5 (47-2) 0 (47-3)	0 (47-2) 0 (47-3)	8	0
2023年 4月	19	0	48	0	1 (47-2) 0 (47-3)	0 (47-2) 0 (47-3)	4	1
2023年 5月	11	0	43	0	0 (47-2) 3 (47-3)	0 (47-2) 0 (47-3)	11	2
2023年 6月	6	0	41	0	3 (47-3) 1 (47-4)	0 (47-3) 0 (47-4)	4	0
2023年 7月	5	1	39	1	1 (47-3) 2 (47-4)	0 (47-3) 0 (47-4)	3	1
2023年 8月	8	0	36	0	0 (47-3) 5 (47-4)	0 (47-3) 0 (47-4)	7	0
2023年 9月	4	1	29	1	6 (47-4) 0 (48-1)	0 (47-4) 0 (48-1)	5	0
2023年 10月	18	0	36	1	5 (47-4) 1 (48-1)	0 (47-4) 0 (48-1)	5	0
2023年 11月	20	0	53	1	0 (47-4) 0 (48-1)	0 (47-4) 0 (48-1)	1	2
2023年 12月	4	0	52	1	1 (48-1) 0 (48-2)	0 (48-1) 0 (48-2)	4	0
2024年 1月	7	0	51	1	0 (48-1) 0 (48-2)	0 (48-1) 0 (48-2)	6	2
2024年 2月	13	0	53	0	2 (48-1) 2 (48-2)	0 (48-1) 1 (48-2)	7	0
2024年 3月	21	0	55	0	5 (48-2) 0 (48-3)	0 (48-2) 0 (48-3)	5	4
2024年 4月	26	0	56	0	6 (48-2) 3 (48-3)	0 (48-2) 0 (48-3)	15	1
2024年 5月	10	0	43	0	1 (48-3) 1 (48-4)	0 (48-3) 0 (48-4)	17	1
2024年 6月	9	0	42	0	0 (48-2) 5 (48-3)	0 (48-2) 0 (48-3)	5	0
2024年 7月	7	0	41	0	1 (48-3) 1 (48-4)	0 (48-3) 0 (48-4)	5	1
2024年 8月	3	0	31	0	0 (48-3) 7 (48-4)	0 (48-3) 0 (48-4)	6	0
2024年 9月	2	0	21	0	0 (48-3) 5 (48-4)	0 (48-3) 0 (48-4)	7	0
2024年 10月	19	0	32	0	2 (48-4) 1 (49-1)	0 (48-4) 0 (49-1)	5	0
2024年 11月	13	1	34	1	0 (48-4) 2 (49-1)	0 (48-4) 0 (49-1)	9	0
2024年 12月	2	0	28	1	0 (48-4) 1 (49-1)	0 (48-4) 0 (49-1)	7	0
2025年 1月	9	0	27	0	0 (49-1) 0 (49-2)	0 (49-1) 0 (49-2)	10 (うち英文1)	1
2025年 2月	10	0	32	0	2 (49-2) 0 (49-3)	0 (49-2) 0 (49-3)	2	1
2025年 3月	7	0	32	0	5 (49-2) 0 (49-3)	0 (49-2) 0 (49-3)	2	0
2025年 4月	23	0	46	0	3 (49-2) 1 (49-3)	0 (49-2) 0 (49-3)	5	0
2025年 5月	7	1	44	0	0 (49-2) 2 (49-3)	0 (49-2) 0 (49-3)	7	1
2025年 6月	5	0	34	0	4 (49-3) 0 (49-4)	0 (49-3) 0 (49-4)	10	1
2025年 7月	10	0	36	0	1 (49-3) 1 (49-4)	0 (49-3) 0 (49-4)	6 (うち英文1)	0
2025年 8月	13	1	41	0	0 (49-3) 3 (49-4)	0 (49-3) 0 (49-4)	5	1
2025年 9月	6	0	31	0	5 (49-4) 0 (50-1)	0 (49-4) 0 (50-1)	9	2
2025年 10月	11	0	31	0	1 (49-4) 1 (50-1)	0 (49-4) 0 (50-1)	9	0
2025年 11月	11	1	40	1	0 (49-4) 0 (50-1)	0 (49-4) 0 (50-1)	2	0

## 広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第 275 号をお届けします。一般社団法人日本科学教育学会の広報活動についてお気づきの点などがございましたら、学会 Web サイトにある「お問い合わせ」をご利用のうえ、お知らせください。

担当理事： 大貫麻美（白百合女子大） 向 平和（愛媛大）

委 員： 内ノ倉真吾（鹿児島大） 辻山洋介（群馬大） 舟生日出男（創価大）  
中村大輝（宮崎大） 日下智志（鳴門教育大） 増田有紀（埼玉大）  
袴田綾斗（高知大）

幹 事： 谷塚光典（信州大） 村田翔吾（日本体育大） 後藤みな（山形大）

科学教育研究レター編集 日本科学教育学会広報委員会

一般社団法人日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

URL : <http://www.jsse.jp>

事務局 中西印刷（株） 学会部 内

T E L : 075-415-3661 F A X : 075-415-3662

E-mail : *jsse [at mark] nacos.com*

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

編集事務局（論文投稿・査読編集）

T E L : 075-415-3155 F A X : 075-417-2050

E-mail : *jsse-hen [at mark] nacos.com*

中西印刷（株） 学会部 内

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

郵便振替口座：00170-6-85183 一般社団法人日本科学教育学会

銀 行 口 座：みずほ銀行 京都中央支店 普通 2419484 一般社団法人日本科学教育学会